

1 社会背景

- ①人口減少・少子高齢化の進展(将来推計) 2015年→2030年
 - ・県内人口: 553万人→514万人
 - ・高齢化率: 27.1%→32.3%
- ②人口の偏在化の進行、小規模集落の増加
 - ・都市部と多自然地域の人口減少率: 都市部 96.7%、多自然地域 88.5% (2015年を100%としたときの2030年の推計)
 - ・小規模集落数: 221(2007年)→502(2016年)
- ③情報化社会の進展
 - ・個人のインターネット利用者の割合: 75.3%(2008年)→79.8%(2018年)
 - ・60歳代、70歳代で約25%利用率が向上

2 地域社会の現状と課題

- ①地域社会運営上の課題
 - 担い手不足、リーダー・後継者不足⇔ 役員の高齢化・固定化等
 - 活動内容のマンネリ化⇔同じ行事の繰り返し、参加者が毎回同じ
 - 県民交流広場アンケート(H30): 広場運営上の課題
 - ・スタッフの固定化や高齢化、人材不足 78.8%
 - ・リーダー・後継者不足 75.4%
 - ・活動内容のマンネリ化 44.2%
- ②地域社会の脆弱化に伴う課題
 - 個人・家庭への支援機能(共助機能)の脆弱化の懸念
 - 「兵庫の豊かさ指標」県民意識調査(2014年→2019年)
 - ・ボランティアなど社会のために活動している、またはしてみたい人の割合: 35.5%→34.5%
 - 地域の活力の低下の懸念(地域への帰属意識低下)
 - 県民意識調査(2014年→2019年) 近所づきあいの程度
 - ・近所づきあいが比較的濃い: 48.6%→44.5%

3 地域社会の課題解決に求められるもの

- ①多様な主体によるきめ細かい対応
 - ・地域課題の多様化、複雑化に対応するため、これまでの行政サービス、地域による活動に加え、多様な主体の参画による多方面からのきめ細かい対応が必要
- ②自助・共助・公助のバランス
 - ・社会状況の変化による財政状況の悪化による、地域への支援の減少は地域自らと地域と関わる多様な主体との共助により補う必要がある。

施策展開の前提となる「ふるさと意識の醸成」

- ふるさと意識の醸成: 地域への愛着と誇り+帰属意識を高める
- 地域の魅力を知る→自然・文化・社会体験機会
- 地域の課題を我がこととしている→防災、防犯、環境活動等参加
- 人と人のつながりが豊か→信頼、互酬性、緩やかなネットワーク

兵庫 2030年の展望

- 兵庫の2030年の姿
- 全員活躍社会
 - ・多様な人々の社会進出が進展
 - ・生涯現役が当たり前
- 充実する「自分時間」
 - ・多様な形で過ごす「自分時間」
- 未来に挑む人づくり
 - ・生涯を通じた学び直し環境が整備

兵庫県地域創生戦略

| 戦略目標 | 重点目標 |
|-----------------|--------------------------------|
| 目標Ⅰ 地域の元気づくり | ○内外との交流が活力を生む兵庫をつくる |
| | ○豊かな文化が息づき、安全安心でにぎわいあふれる兵庫をつくる |

提言の視点と方向性

「住民主体の地域づくりを進めるためには、地域力(課題解決力+人材確保・養给力)強化が必要」

課題解決力

住民自らが、より良い地域づくりに向け、地域の人材や資源を生かすとともに、多様な主体と協働しながら事業を展開し、住民主体で地域を運営する力

人材確保・養给力

地域において、担い手となる人材を発掘、地域の中でその人に合った活躍の場と機会を提供し、スキルアップを支援していく力

今後、早急に検討を要する項目

新型コロナウイルス禍により、県民の意識や生活スタイルが変わりつつあることから、ポストコロナ社会の新たな生活スタイルについて調査、審議を諮り、地域力強化の更なる検討が必要

提言1 地域社会の課題解決力を高める仕組みづくり

1 多様な主体と協働する力の強化

- ①地域・団体・企業・大学等多様な主体との協働促進
 - ・活動の担い手確保、各主体の専門知識やノウハウの活用等による地域課題解決につなげる
- ②都市と多自然地域などの地域間交流の促進
 - ・互いの行事への参加やノウハウの共有など地域同士の相互補完の仕組みづくりを促進する
- ③関係人口等新たな担い手の増加
 - ・地域資源に関心がある人を呼び込み、地域活動の新たな担い手の確保につなげる

[取組例]

- ・生活創造センター・文化会館の機能強化
- ・ひょうごの元気ムラ大交流会
- ・ボランティア活動に参加する関係人口に対する支援

2 事業を展開する力の強化

- ①様々な手段による活動資金確保の仕組みの充実
 - ・地域の運営や活動を安定的に継続するための資金獲得の仕組みづくりを促進する
- ②地域の活動にビジネスの視点を導入
 - ・地域が自ら活動資金を稼ぎ、従事者への対価の支払により資金問題解決と担い手確保につなげる
- ③寄附・出資、企業協賛等による参画促進
 - ・寄附・出資等の社会的認知を向上、企業のCSRの取組による支援が得られる環境づくりを支援する

[取組例]

- ・地域包括交付金(市町)
- ・コミュニティ・初離陸応援事業
- ・ふるさとひょうご寄附金

3 情報収集・分析・発信する力の強化

- ①ICT等活用した様々なメディアによる情報収集・発信促進
 - ・情報収集や発信を効果的に行い地域活動の参加者を増やすため、情報を扱う能力の向上のための取組を充実する
- ②アプリ等を活用した地域内の情報共有促進
 - ・地域内の情報伝達を確実かつ迅速に行うとともに、双方向での情報共有をすすめる、地域運営の円滑化を図るためのアプリ開発・導入等を支援する

[取組例]

- ・高齢者大学等でのICT利活用講座
- ・ICT等利活用における優良事例の発信・共有
- ・情報通信基盤の強化

4 地域を持続的に運営する力の強化

- ①合意形成・プロセス重視の仕組みづくり
 - ・コーディネーター、ファシリテーターなど中間支援的なサポート体制を充実する
- ②必要に応じた地域組織等の法人化推進
 - ・地域の組織化、運営ルールの透明化、責任の明確化のための法人化を推進する
- ③新たな地域のあり方の模索
 - ・時代の変化に応じた地域の変化を容認し、地域をより良くするための取組を紹介する

[取組例]

- ・NPO等中間支援団体への支援
- ・市町職員へのスキルアップ研修
- ・地域再生大作戦の展開(地域運営の基盤強化)

提言2 地域社会の人材確保・養给力を高める仕組みづくり

1 できる時にできる方法で関わる仕組みの充実

- ①地域への参加方法や関わり方の多様化
 - ・働き盛りの世代も参加しやすい条件設定、情報提供を充実。特定分野のみの参加、個人の能力を生かせる活動の場の提供等の普及・啓発を促進する
- ②地域外からの参加を促す仕組みづくり
 - ・地域外からの参加を積極的に受け入れる取組を支援するとともに、活動する者への支援を促進する

[取組例]

- ・「ちょボラ(例:ランニングパトロール)」「プロボノ(例:コミュニティ応援隊)」など多様な関わり方の提案
- ・地域再生大作戦の展開(地域再生の外部、側面支援)
- ・都市農村交流、e-県民

2 参加・スキルアップのきっかけづくりの充実

- ①地域に参加するきっかけが充実
 - ・地域の活動に気軽に参加が可能な仕組みづくりを促進する
- ②地域課題解決のための学習、スキルアップ、交流機会が充実
 - ・ライフステージの各段階において、地域での活動を志向する人のための学習、交流機会を充実する
- ③実践の場の提供、経験者のサポートが充実
 - ・各種人材養成講座においてフィールドワークなど実践的講座を充実する

[取組例]

- ・生涯学習情報システム、コラボネットの運用
- ・リカレント教育推進プロジェクトの推進
- ・各ライフステージに応じた学習機会等の提供
- ・地域との協働による先進的教育研究開発事業

3 若者がチャレンジできる機会や雰囲気醸成

- ①若者の主体的な参加を促す仕組みが充実
 - ・若者が地域に愛着と誇りを持ち、地域の困り事を自分事と認識し自ら主体的に地域に参加するための取組を充実する
- ②世代間の相互理解、役割の継承が行われ、若者へ役割が委譲
 - ・地域に若者が活躍できる場をつくり、新たな活力を生み出すため、世代間の相互理解を進め、若者へ役割が委譲される雰囲気を醸成する

[取組例]

- ・ふるさと貢献・活性化事業
- ・大学等との連携による地域創生拠点活動支援事業

4 何かしたいときに気軽に立ち寄れる拠点の整備

- ①地域の情報と多様な主体を結び、活動につなげる拠点機能の充実
 - ・地域の情報が集まり、多様な主体がネットワークを創る場とするための拠点機能の充実を促進する
- ②オープンな場となるような拠点づくり
 - ・気軽に誰もが利用しやすい拠点づくりを促進する

[取組例]

- ・県民交流広場を活用した地域力強化事業
- ・空き家、古民家等を有効活用した拠点施設整備に対する支援